

第4章 松山市におけるこれまでの文化財の保存・活用の取組

1 文化財行政の取組

(1) 松山市における文化財保護のあゆみ

■文化財保護のはじまり

明治政府による神仏分離令をきっかけに巻き起こった^{はいぶつきしゃく}廃仏毀釈により、仏教は弾圧され多くの寺院が破壊されました。これに対し、明治4(1871)年には古器旧物保存方が布告され、建造物や寺宝の把握がはじまり、明治30(1897)年には古社寺保存法が制定、文化財の指定と保護がはじまりました。

松山市内においても、太山寺・大宝寺・石手寺をはじめとする寺社の建造物や美術工芸品が特別保護建造物や国宝に指定され、昭和4(1929)年制定の国宝保存法に基づく国宝として引き継がれました。また、同法により、指定対象が社寺の所有に限らなくなって以降、昭和10(1935)年に松山城の建造物が国宝に指定されました。また、大正8(1919)年に史蹟名勝天然紀念物保存法が施行され、「エヒメアヤメ自生南限地帯」が大正14(1925)年に国天然記念物に指定されました。松山市における文化財保護はこうして黎明期を迎えました。

■現代につながる文化財保護

昭和25(1950)年文化財保護法が公布されると、国宝保存法により指定されていた建造物は、新法の重要文化財に指定されました。昭和27(1952)年には、「松山城跡」が国史跡に指定され、昭和43(1968)年からは、小太守ほか松山城の焼失した建造物の復元が継続的に行われ、往時の城郭の威容を取り戻しました。また、昭和37(1962)年には、松山市文化財保護条例を施行、有形文化財「^{ばいしんじ}梅津寺の鐘」や天然記念物「^{かね}うば桜」など市を代表する文化財を指定し、松山市独自の文化財保護行政を開始しました。

昭和47(1972)年には、下水処理場建設に先立つ発掘調査で、「古照遺跡」が発見されました。「古照遺跡」は、発見当初弥生時代の住居がそのまま出土したと話題になり、全国的な耳目を集めました。出土した木材は、住居ではなく、建物の木材を再利用して築かれた井堰であることが後に判明しましたが、松山における埋蔵文化財調査の嚆矢となり、後の平成元(1989)年には遺跡に近接する南斎院町に松山市立埋蔵文化財センター・松山市考古館が開館、井堰の一部が復元展示されました。

また、昭和26(1951)年には「子規50年祭記念行事」、昭和41(1966)年には「子規・漱石・極堂生誕100年祭記念行事」が実施されるなど、正岡子規と短詩系文学の顕彰が官民を挙げて行われてきました。子規顕彰全国俳句大会など各種大会が始まり、昭和50(1975)年から53(1978)年にかけては『子規全集』が刊行され、この機運がさらに盛り上がり、昭和56(1981)年松山市立子規記念博物館が開館、松山市の文化の柱となりました。

平成元年には、松山市政施行100周年を迎え、先述の松山市考古館の建設などさまざまな記念事業が行われました。この中で特筆すべき点として、松山市史及び松山市史料集の編纂が挙げられます。松山市史料集は、市史編纂に先立ち各時代の史料や文書を集成したもので昭和55(1980)年から63(1988)年までに全13巻を発刊しました。松山市史は平成4(1992)年から7(1995)年までに全5巻が刊行され、松山の通史を総括しました。

平成11(1999)年からは、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』をテーマとした、まちづくり施策「坂の上の雲のまちづくり」を開始し、平成19(2007)年、まち全体を屋根のない博物館とする『坂の上の雲』フィール

ドミュージアム構想の中核施設として坂の上の雲ミュージアムが開館しました。坂の上の雲ミュージアムでは、小説に描かれた主人公3人の足跡や明治という時代に関する展示に加え、まちづくりに関するさまざまな活動を行っています。

平成23(2011)年からは、子どもたちに郷土への愛着や誇り、将来への志を育むことを目的として、「ふるさと松山学」を推進しています。全7巻の『語り継ぎたい ふるさと松山 百話』を刊行、学校教育や社会教育での活用を図りました。平成30(2018)年には、これらをまとめた『ふるさと松山学 語り継ぎたい ふるさと松山 百話 広がれ!ふるさと松山の心』を刊行、正岡子規をはじめとする78人の人物を取り上げ、郷土の偉人として顕彰しているほか、松山の伝統や歴史文化に関する説話を紹介しており、子どもだけではなくすべての人々に松山の伝統、文化、歴史、先人の志や想い、生き様を伝えています。

(2) これまでの文化財把握調査

①国による把握調査

国による近年の文化財把握調査としては、以下が挙げられます。

No.	調査報告書名	発行年
1	『農林水産業に関する文化的景観の保護に関する調査研究』	平成 15(2003)年
2	『採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究』	平成 22(2010)年
3	『近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書』	平成 24(2012)年
4	『名勝に関する総合調査』	平成 25(2013)年

②愛媛県による把握調査

愛媛県では、以下のような調査を実施し、文化財の報告書を発行してきました。

No.	調査報告書名	発行年
1	『愛媛県史跡名勝天然記念物調査報告書』	昭和 13(1938)年
2	『忽那七島調査書』	昭和 26(1951)年
3	『文化財総合調査報告書 昭和 47 年度』	昭和 48(1973)年
4	『文化財総合調査報告書 昭和 48 年度 1』	昭和 49(1974)年
5	『ふるさと年中行事調査報告書 昭和 49 年度』	昭和 50(1975)年
6	『伊予水軍関係資料調査報告書』	昭和 51(1976)年
7	『愛媛県民謡保存調査報告書』	昭和 56(1981)年
8	『愛媛県民俗地図 民俗文化財分布調査報告書』	昭和 57(1982)年
9	『愛媛県の民俗芸能 無形民俗文化財調査報告書』	昭和 58(1983)年
10	『愛媛県の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書』	平成 2 (1990)年
11	『愛媛県の句碑・道標 句碑等実態調査報告書』	平成 3 (1993)年
12	『愛媛県の諸職 諸職関係民俗文化財調査報告書』	平成 4 (1992)年
13	『愛媛県歴史の道調査報告書 第一集 今治街道』	平成 7 (1995)年
14	『愛媛県歴史の道調査報告書 第二集 土佐街道 三坂越え』	平成 7 (1995)年
15	『愛媛県歴史の道調査報告書 第三集 讃岐街道』	平成 8 (1996)年
16	『愛媛県歴史の道調査報告書 第四集 土佐街道 笹ヶ峰越え』	平成 8 (1996)年
17	『愛媛県歴史の道調査報告書 第五集 大洲街道』	平成 9 (1997)年
18	『愛媛県の民俗芸能一愛媛県民俗芸能緊急調査報告書一』	平成 11(1999)年
19	『四国遍路のあゆみ (平成 12 年度遍路文化の学術整理報告書)』	平成 13(2001)年

No.	調査報告書名	発行年
20	『伊予の遍路道（平成13年度遍路文化の学術整理報告書）』	平成14(2002)年
21	『遍路のころ（平成14年度遍路文化の学術整理報告書）』	平成15(2003)年
22	『愛媛県の地質鉱物 天然記念物緊急調査(地質鉱物)報告書』	平成15(2003)年
23	『愛媛県の近代和風建築—近代和風建築総合調査報告書—』	平成18(2006)年
24	『愛媛県歴史の道総合計画 基本構想編』	平成23(2011)年
25	『愛媛県歴史の道総合計画 詳細構想編』	平成24(2012)年
26	『愛媛県の近代化遺産—近代化えひめ歴史遺産総合調査報告書—』	平成25(2013)年
27	『四国八十八箇所霊場詳細調査報告書 5 浄土寺』	令和3(2021)年
28	『四国八十八箇所霊場詳細調査報告書 6 浄瑠璃寺』	令和3(2021)年
29	『四国八十八箇所霊場詳細調査報告書 10 八坂寺』	令和5(2023)年

③愛媛県による埋蔵文化財把握調査

松山市内で行われた埋蔵文化財の把握に関わる愛媛県の調査成果は以下のとおりです。

No.	調査報告書名	発行年
1	『愛媛県文化財地図 昭和55年8月現在』	昭和55(1980)年
2	『愛媛県埋蔵文化財包蔵地一覧表』	昭和57(1982)年
3	『愛媛県中世城館跡分布調査報告書』	昭和62(1987)年
4	『愛媛県内古墳 分布調査報告書』	平成3(1991)年
5	『愛媛県文化財地図 平成5年3月現在』	平成5(1993)年
6	『愛媛県埋蔵文化財包蔵地分布図』	平成12(2000)年
7	『愛媛県埋蔵文化財包蔵地一覧表』	平成12(2000)年
8	『愛媛県の近世・近代窯跡分布調査報告書』	令和5(2023)年

④地域史の発行

愛媛県や松山市、合併前の旧市町村をはじめとする行政が主体となり、執筆された地域史は以下のとおりです。

No.	調査報告書名	発行者	発行年
1	『愛媛県史』	愛媛県史編さん委員会	昭和57(1982)年～平成元(1989)年
2	『郷土誌 生石村』	生石村	明治43(1910)年
3	『余土村史』	余土村	大正14(1925)年
4	『松山市小誌』	松山市役所	昭和15(1940)年
5	『愛媛県温泉郷 小野村史』	小野村史編纂実行委員会	昭和35(1960)年
6	『久米村誌』	久米村誌刊行会編集部	昭和40(1965)年
7	『久米村誌資料集』	久米村誌編集委員会	昭和40(1965)年
8	『愛媛県温泉郷 石井村史』	石井村史編纂委員会 (石井村史追録編纂委員会)	昭和40(1965)年 (追録:昭和57(1982)年)
9	『久谷村史』	久谷村史編纂委員会	昭和42(1967)年
10	『北条市の人文・自然』	北条市役所	昭和40(1965)年
11	『北条市誌』	北条市誌編纂委員会	昭和56(1981)年
12	『中島町誌』	中島町誌編集委員会	昭和43(1968)年
13	『道後の歴史と文化』	松山市教育委員会	昭和49(1974)年

No.	調査報告書名	発行者	発行年
14	『中島町誌史料集』	中島町誌史料集編纂委員（中島町誌史料集編集委員会）	昭和 50(1975)年 (改訂版:昭和 63(1988)年)
15	『松山市史料集』第 1 巻～第 1 3 巻	松山市史料集編集委員会	昭和 55(1980)年～ 昭和 63(1988)年
16	『古代の松山平野』	松山市教育委員会	昭和 57(1982)年
17	『中島の歴史物語』	中島の歴史物語編集委員会編	昭和 62(1987)年
18	『松山市年表』	松山市	昭和 63(1988)年
19	『松山の歴史』	松山市史編集委員会	平成元(1989)年
20	『松山の歴史ーダイジェスト版ー』	松山市史編集委員会	平成元(1989)年
21	『松山市史 第一巻～第五巻』	松山市史編集委員会	平成 4 (1992)年～ 平成 7 (1995)年
22	『忽那諸島の歴史を訪ねて』	松山市教育委員会他	平成 24(2012)年
23	『松山市・北条市・中島町合併記念誌』	松山市	平成 27(2015)年

そのほか、市内外の研究者、公民館、町内会、まちづくり協議会、小中学校などにより、地域史が発行されており、現在把握できているだけで50種におよびます。

No.	調査報告書名	発行・編集	発行年
1	『三津浜誌稿』	三津浜郷土史研究会編	昭和 35(1960)年
2	『伊台村誌』	伊台公民館編	昭和 41(1966)年
3	『たかはま 高浜校区郷土史』	高浜小学校 PTA 郷土史編集委員会	昭和 53(1978)年
4	『ふるさと八坂』	松山市立八坂小学校	昭和 54(1979)年
5	『ふるさと八坂 第二集』	松山市立八坂小学校	昭和 54(1979)年
6	『わたしたちの余土』	松山市立余土小学校編	昭和 54(1979)年
7	『ふるさと坂本めぐり』	松山市立坂本小学校	昭和 55(1980)年
8	『生石のあゆみ』	松山市立生石小学校編	昭和 56(1981)年
9	『ふるさと桑原』	みんなでつくる住みよい桑原地区委員会編	昭和 56(1981)年
10	『郷土読本 ふるさと小野（第一集） 史跡・文化財編』	松山市立小野小学校 『ふるさと小野』編集委員会編	昭和 57(1982)年
11	『ふるさと 味生』	松山市立味生小学校 PTA 編	昭和 58(1983)年
12	『郷土読本 ふるさと小野（第二集） 年中行事編』	松山市立小野小学校 『ふるさと小野』編集委員会編	昭和 58(1983)年
13	『和気の昔語り』	芳野勝正編	昭和 59(1984)年
14	『郷土読本 ふるさと小野（第三集） 地名編』	松山市立小野小学校 『ふるさと小野』編集委員会編	昭和 59(1984)年
15	『郷土読本 ふるさと小野（第四集） 子供歳時記編』	松山市立小野小学校 『ふるさと小野』編集委員会編	昭和 60(1985)年
16	『わがふるさと 土居町のあゆみ』	土居町史編さん委員会編	昭和 61(1986)年
17	『郷土読本 ふるさと小野（第五集） 伝説・昔話編』	松山市立小野小学校 『ふるさと小野』編集委員会編	昭和 61(1986)年

No.	調査報告書名	発行・編集	発行年
18	『五明の里』	松山市五明公民館「五明の里」編集委員編	昭和 61(1986)年
19	『和泉郷土誌』	和泉郷土誌編集委員会編	昭和 62(1987)年
20	『湯山誌稿 第二巻』	湯山誌稿「第二巻」編集委員会編	昭和 62(1987)年
21	『続 ふるさと桑原』	みんなでつくる住みよい桑原地区委員会編	昭和 62(1987)年
22	『ふるさと河野』	北条市立河野小学校編	平成元(1989)年
23	『ふるさと勝山』	松山市立勝山中学校	平成 2(1990)年
24	『しみず 副読本』	松山市立清水小学校編	平成 2(1990)年
25	『日浦の里』	日浦の里編集委員会編	平成 3(1991)年
26	『久米郷土誌』	久米郷土誌編集委員会編	平成 4(1992)年
27	『郷土清水』	松山市清水公民館	平成 6(1994)年
28	『なんば』	北条市立難波小学校編	平成 7(1995)年
29	『ふるさと中島』	中島町立中島中学校	平成 7(1995)年
30	『ふるさと鴨川』	松山市立鴨川中学校	平成 8(1996)年
31	『富久とその地域の歩み 田園地帯から副都心へ』	富久歴史資料集編集委員会編	平成 9(1997)年
32	『ふるさと浮穴 戦後五十年記念誌』	戦後五十年記念誌ふるさと浮穴編集委員会編	平成 9(1997)年
33	『権現町誌』	権現町誌編集委員会編	平成 9(1997)年
34	『栗井の里』	栗井小学校郷土誌編集委員会編	平成 9(1997)年
35	『ふるさと椿』	松山市立椿小学校同人	平成 11(1999)年
36	『わが町ふるかわ』	松山市古川町内会	平成 12(2000)年
37	『久枝地域の文化と伝承』	久枝公民館の文化と歴史編集委員会編	平成 12(2000)年
38	『ふるさとほりえ 発見の旅』	松山市堀江公民館	平成 12(2000)年
39	『たちばなの郷』	松山市立たちばな小学校	平成 15(2003)年
40	『ふるさとほりえ 歴史街道』	松山市堀江公民館	平成 15(2003)年
41	『持田のいま昔物語』	持田のいま昔物語編纂委員会編	平成 15(2003)年
42	『ふるさと怒和』	中島町立怒和小学校	平成 15(2003)年
43	『ふるさとほりえ 学びの窓』	松山市堀江公民館	平成 15(2003)年
44	『わが郷土石井の今昔そして未来へ』	石井地区ふるさと史編集委員会編	平成 19(2007)年
45	『ふるさと北土居のあゆみ』	町誌編集委員	平成 20(2008)年
46	『ふるさと探訪(愛媛県松山市泊町)歴史や文化・暮らしを訪ねる 改訂増補版』	田中正人・田中正春編著	平成 26(2014)年
47	『平田のむかし』	平田歴史文化の会編	平成 27(2015)年
48	『道後で暮らす語り部の記憶』	伊佐庭如矢顕彰実行委員会	平成 27(2015)年
49	『興居島の面影(愛媛県松山市) 歴史や文化・暮らしを訪ねる 増補版』	田中正人・田中正春編著	令和元(2019)年
50	『潮見ものがたり』	潮見地区まちづくり協議会編	令和 2(2020)年

(3) 松山市による文化財把握調査

松山市では(2)④で示した地域史、史料集の編纂のほか、各分野の把握調査や、開発に伴う発掘調査・史跡等の内容確認のための発掘調査により各文化財の把握を行い、『松山市文化財調査報告書』を第1集から第210集まで刊行しています。また、埋蔵文化財について、松山市教育委員会と公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センターが市内で実施した発掘調査等事業に関するものを『松山市埋蔵文化財調査年報』としてまとめています。

調査分野	調査報告書名	調査主体	発行年
有形文化財	『松山の文学碑』	松山市教育委員会	昭和 47(1972)年
	『松山の道しるべ』	松山市教育委員会	平成 11(1999)年
	『俳句の里 松山』	松山市教育委員会	平成 25(2013)年
	『発掘松山の至宝』	松山市教育委員会	令和 2(2020)年
有形民俗文化財	『昔日の風 民具等有形民俗文化財ガイドブック』	松山市教育委員会	平成 18(2006)年
無形民俗文化財	『おへんろさん 松山と遍路の民俗』	松山市教育委員会	昭和 56(1981)年 (復刻版:平成 16(2004)年)
	『松山の民俗 無形民俗文化財調査報告書』	松山市教育委員会	平成 12(2000)年
埋蔵文化財	『古代の松山平野』	松山市教育委員会	昭和 57(1982)年
	『発掘松山の遺跡』	松山市教育委員会	平成 22(2010)年
その他の文化財	『松山のむかし話-伝説-』	松山市教育委員会	昭和 52(1977)年
	『松山のむかし話-民話-』	松山市教育委員会	昭和 53(1978)年

(4) これまでの文化財の調査に関する現状

松山市内における文化財の調査に関する現状は、以下のとおりまとめることができます。

[文化財の調査状況] (令和4年3月現在)

文化財の種類			先史	古代	中世	近世	近代	現代
有形文化財	建造物				○	○	△	△
	美術 工芸品	彫刻		◎	◎	△	×	—
		書跡・典籍・古文書		—	◎	○	◎	—
		工芸品		○	○	◎	△	×
		絵画			△	△	△	△
		考古資料	◎	◎	○	○	×	×
		歴史資料			○	○	△	×
無形文化財						△	—	—
民俗文化財	有形の民俗文化財					○	◎	○
	無形の民俗文化財					○	◎	○
記念物	遺跡		◎	◎	○	△	×	×
	名勝地					△	△	△
	動物・植物・地質鉱物		△	△	△	△	△	△
文化的景観						×	×	×
伝統的建造物群						—	—	—
文化財の保存技術						—	—	—
その他の文化財	地域に伝わる史話・伝承			○	○	◎	◎	—
	人物にまつわる業績や逸話			○	○	○	◎	○
埋蔵文化財			◎	◎	○	○	×	×

◎：多く分布し調査できている ○：分布し調査できている

△：分布するが調査が不十分 ×：分布するが未調査

—：分布の可能性はあるが、現時点で該当する文化財が確認できていない

斜線：該当する文化財が存在しない

■有形文化財

松山市内では、寺院を中心に中近世の建造物が比較的多く分布しており、指定が進んでいますが、近現代については分布の把握調査は進んでいるものの、詳細調査が遅れています。美術工芸品では、彫刻は古代・中世の仏像を中心に把握調査と指定が進んでいるほか、正岡子規をはじめとする近代の書跡・典籍や近世文書などの調査が進んでいます。また、考古資料については、市内の埋蔵文化財発掘調査が進んだことで整理や調査が進展しています。工芸品については、仏具や近世の刀剣類を中心に多く分布する一方、近代以降については、調査の不足が見られます。絵画についても、仏教絵画が多く見られますが、全体として把握調査や詳細調査が遅れています。

■無形文化財

松山市内では、近世から能楽や茶道、煎茶道などが盛んであり現代に根付いているほか、刀剣製作や竹細工など近世に源流を持つ技術が知られているものの、その把握調査や詳細調査は不足しています。

■民俗文化財

有形の民俗文化財では、算額など近世の民俗文化財の調査と指定が進んでいるほか、近代の民具を中心に多く分布しており調査が進んでいます。無形の民俗文化財では、近現代の祭礼行事や民俗芸能の把握調査が進んでいるものの、評価に繋がる詳細調査は行えていません。

■記念物

遺跡については、詳細の把握や調査が進められていますが、近世以降の遺跡については、松山城以外の調査が不足しています。また、現代の遺跡である戦争遺跡については、その把握や調査が不足しています。名勝地については、近世以降の景勝地、特に俳句や短歌に詠まれた景勝地が分布しますが、調査が進んでいません。また、植物では、巨樹名木の把握調査と指定が進みましたが、動物と地質鉱物の調査は遅れています。

■文化的景観・伝統的建造物群・文化財の保存技術

往来や産業に係る文化的景観候補が分布するものの、調査は進んでいません。また、伝統的建造物群については、現時点で候補となる文化財は把握されていません。文化財の保存技術については、分布の可能性はありますが調査できていません。

■その他の文化財

史話と伝承、人物にまつわる業績や逸話は、把握調査や詳細調査が進み周知されています。

■埋蔵文化財

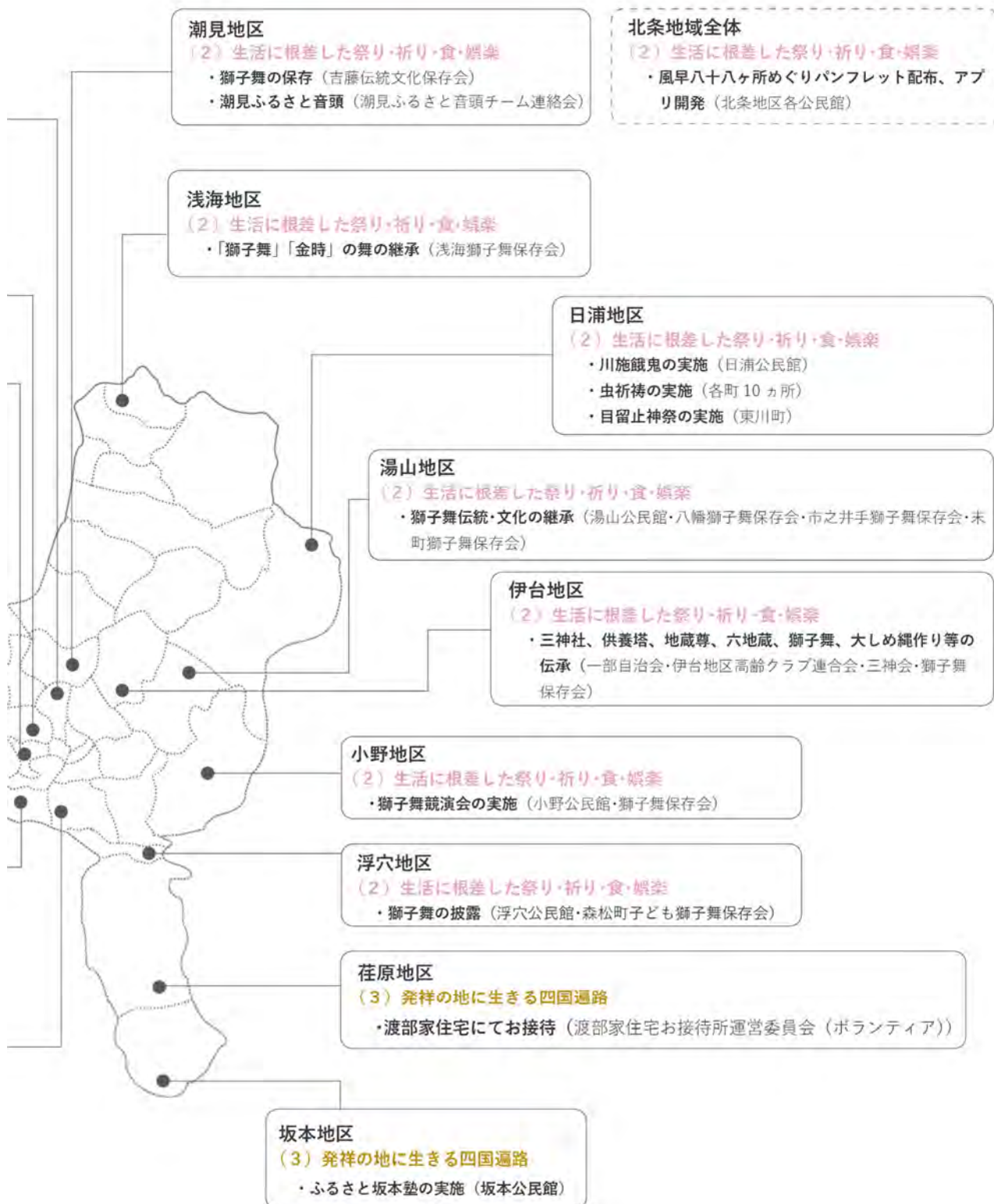
埋蔵文化財については、土木工事の届出に伴う試掘調査や本格調査の進展により把握調査や詳細調査が進んでいますが、近世以降の埋蔵文化財については、調査が不足しています。

2 市民による取組

松山市では、まちづくり協議会や公民館に加え、市民有志の団体により、歴史文化や文化財の調査や研究、顕彰、保存・活用が行われてきました。各団体の活動と第3章歴史文化の特性で示した10のストーリーとの関係性を示すと以下のとおりです（市民団体については、令和4（2022）年11月に実施した公民館へのアンケートにより明らかになったもの等を掲載しています。）。

（1）「まちに息づき、今も愛される ことば、いのり、くらしの文化」に関連する市民の取組





(2)「松山の礎を築いた先人たちの想いとくらし」に関連する市民の取組





(3)「古くから、人々に選ばれ、人々が集まり、くらしが生まれた

穏やかな海、豊かな平野、湧き出る湯」に関連する市民の取組

